

児童生徒の情報活用能力を育む映像制作

—映像で伝えるよさを実感できる子どもをめざして—

映像制作研究会議

研究員 三宅 裕之 (川崎市立さくら小学校) 栗栖 里加 (川崎市立はるひ野小学校)

後藤 章人 (川崎市立南加瀬中学校) 木原 貴史 (川崎市立西高津中学校)

指導主事 栃木 達也

I 主題設定の理由

1 国の動向

情報教育及びICT活用の充実等については、学習指導要領の中で重視している事項との関係において、「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用できるようにすることが重要である。」¹とされている。

教科等の目標を達成するために児童生徒がICTを効果的に活用することについては、「教科等の学習で学んだことや、自分の伝えたいことを、他の児童生徒にわかりやすく発表したり、絵図や表、グラフなどを用いて効果的に表現したりするために、コンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用する。」²と、学習活動の具体的な場面について例示されている。

また、児童生徒につけさせたい情報活用能力のうち「情報活用の実践力」については、「課題や目的に応じた情報手段の適切な活用」、「必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造」、「受け手の状況などを踏まえた発信・伝達」の三つの要素からなり³、各教科等の目標達成と併せてそれぞれの能力を身に付けさせることが重要課題となっている。

2 映像制作を取り入れた学習活動の現状

本研究会議は、昨年度の「映像教材研究会議」における研究の成果や課題をふまえ、児童生徒の情報活用能力を育成するための手段としての映像制作を学習活動として位置づけ、検証を行うこととした。

撮影機器に関しては、デジタルカメラが身近で手軽に動画の撮影ができるので、映像制作活動を取り入れる上で大きなメリットとなることが昨年度の研究での成果としてあげられている。教師も児童生徒も、持ち運びの手軽さや記録媒体であるSDカードの扱いやすさ等、デジタルカメラの使いやすさを実感していた。

児童生徒が、発表や説明の際に根拠を示すために映像を活用することの有効性については、これまでのセンターの研究で示されている。しかし、映像で発表した方が効果的であるとの思いが高まってきた時に、そのスキルが身につけていないのでは表現力を高めていくことはできない。児童生徒の発

¹ 文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援 学校学習指導要領解説 総則編」2008年、2009年

² 文部科学省「教育の情報化に関する手引」2010年

³ 文部科学省「教育の情報化に関する手引」2010年

達段階に応じて、表現ツールの一つとして映像で発表することをスキルとして身につけておく必要性も、情報活用能力を育てていく上で課題の一つとしてあげられている。

また、「映像で伝えるよさはわかったけれど、いざ取り組もうとすると難しい。」という教師への指導面でのサポートとなる教材の開発も課題となっている。機器について詳しい教師だけでなく、だれでも映像制作のためのスキルについて指導できるようにするためには、「撮影・編集のための手引」のようなものが待望されている。児童生徒が「これなら自分も映像制作に取り組めそう」と思えるような具体的な技術面のサポートがない中で、学習活動として手軽に映像制作を取り入れることはかなり難しいのが現状である。

3 主題設定について

情報活用能力を育てるためには多様なアプローチの方法がある。昨年度の研究会議では、情報活用の実践力の三つの要素のうち、「受け手の状況などを踏まえた発信・伝達」に焦点をあて、児童生徒にその能力を身につけさせるための手段の一つとして、映像制作（動画で伝えること）を取り入れた授業検証をもとに、映像制作の効果や有効性について探った。本研究会議では、児童生徒に「受け手の状況などを踏まえた発信・伝達」する力を身につけさせるためには、まず収集した情報から必要なものをよく吟味して選択し、伝える順序を考えて組み立てていくといった学習の流れを充実させることが重要ではないかと考えた。

自分たちの思いや伝えたいことを表現するツールは様々考えられる。中でも映像は、言葉だけではなかなか伝わらないことを、音声や画面でわかりやすく効果的に伝えることが得意である。また映像制作活動は、制作の過程で自分たちが撮影した映像を、「見てもらう人にとって分かりやすいものになっているか」と客観的に受け手の立場になって見直すことができ、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成のための一つのツールとしての役割を果たすと考える。映像が表現ツールとして身近なものになるためには、映像が伝えたいことをわかりやすく発信・伝達するために有効であると児童生徒が認識し、その効果やよさを実感できるような授業を展開することが重要であると考え、本主題を設定した。

Ⅱ 研究の内容

1 研究の方法と流れ

教科等の目標を達成するため、表現・発信手段の一つとして映像制作の活動を取り入れることによる効果やその過程で身に付く力について、総合的な学習の時間の単元を通じた授業（小学校第4学年及び中学校第2学年）で検証を行った。

2 検証授業

検証授業 1

小学校第4学年 総合的な学習の時間 「みんな知ってる？いいねがいっぱい！黒川谷ツ公園」

(1) 映像制作に関して

本単元は、地域にある黒川谷ツ公園のよさを家族や地域の方々にわかりやすく伝えることを目標としている。この目標を達成するために、伝える手段として映像を用いることとした。児童が課題別のグループ単位で映像を制作し、映像を使った発表を通して、「音や動きなどわかりやすく伝えることが

できる」といった映像のよさを児童が実感することで、今後発表方法の一つとして映像という表現手段を選択して活用してほしいというねらいをもち、学習計画を立てた。

(2) 使用機器、ソフトウェアについて

撮影機器は、児童が簡単に撮影できるようデジタルカメラを使用した。撮影したものを確認したり編集したりする機器として、タブレットPCを使用した。どちらもタッチパネルで簡単に操作できることから、4年生でも抵抗感なく活動できると考え使用することとした。また、編集用ソフトウェアは、学校に導入されている「キューブきつず4」⁴の「ニュース制作」を使用した。

(3) 本時の流れ

<本時の展開①> (14 / 35)

・本時の目標 黒川谷ツ公園で撮影した課題別の写真や動画を見て、発表に使いたいものを選び、次回撮影したいものを考える。 [情報の整理・分析・選択]

・展開

主な学習活動	○支援 【評価方法】
<p>1. 本時のめあてと自分の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発表に使いたい写真・動画をえらび、次回とりたいものを考えよう。</p> </div> <p>2. 課題別グループに分かれ、前回撮影した写真・動画をタブレットPCで見て、発表に使いたいものを選ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① タブレットPCの画面は、特大アイコンが映しだされた状態からスタートする。 ② 見たい写真・動画をダブルクリックする。 ③ 左から右へ指をスライドしてアイコン画面に戻る。(黒枠からゆっくりスライドする)</p> </div> <p>3. 次回、撮影したい写真・動画を考え、ワークシートにメモする。(個人→グループ→全体で共有)</p> <p>4. 次回の観察について確認する。</p>	<p>○最終ゴールを確認し、「見ている人に伝わりやすいものを選ぶこと」を伝える。 ○グループ内で友だちの課題を共有し、協力して写真・動画を選ぶよう伝える。 ○ワークシートの説明をする。 ○写真・動画データの見方を確認する。</p> <p>○内容と技術面について、分けて書くようにする(ワークシート)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆黒川谷ツ公園で撮影した課題別の写真や動画を見て、発表に使いたいものを選び、次回撮影したいものを考えている。 追①[ワークシート・発言]</p> </div>

<本時の展開②> (22、23 / 35)

・本時の目標 発表会に向けて個人で選んだ黒川谷ツ公園の素材(写真・動画)を、グループ内でどの順番で発表するか根拠をもって決める。 [情報の整理・分析]

・展開

主な学習活動	○支援 【評価方法】
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>写真・動画を発表する順番をグループで工夫して決めよう。</p> </div>	<p>○発表会までの流れの中で、今どこの時間なのかを確認し、「伝えたいことを伝えるために写真や動画を出す順番を工夫すること」を伝える。</p>

⁴ スズキ教育ソフト 小学校向け教育用統合ソフト

<p>2. 課題別グループに分かれ、個人で選んだ写真カードをグループとしてどのような順番で発表していくか話し合う。</p> <p>①個人ワークシートの写真と説明をセットにして1枚1枚切り離す(カード化)。</p> <p>②一人ずつ、この素材(写真・動画)で何を伝えたいのかを発表しながら、カードを画用紙(四ツ切)の上に置いていく。</p> <p>③どういう順番で発表するかを話し合う。</p> <p>④決まったら、画用紙にカードを順番に並べて貼っていく。</p> <p>⑤画用紙にどんな順番に並べたのかを書く。</p> <p>3. どんな順番に並べたのか各グループ発表をする。</p> <p>4. 次の時間の確認をする。</p>	<p>○あらかじめ、自分のテーマ(伝えたいこと)をカードに書いておく。</p> <p>○順番を工夫するつぶやきを拾っておく。</p>
--	--

主な学習活動	○支援 【評価方法】
<p>1. 本時のめあてとパソコン操作の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グループで協力して、決めた順番に写真や動画をつなげよう。</p> </div> <p>2. 課題別グループで、写真カードを見ながら発表する順番にデータを並べる。</p> <p>3. 2時間の振り返りをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○素材(写真・動画)を並べたときのこと。 ○編集した映像を見ての感想。 ○困っていること、もっとこうしたいなど。 <p>4. ワークシートに書いた振り返りを発表する。</p> <p>5. データを保存する。</p>	<p>○課題別グループに分かれる。</p> <p>○キューブきつず4の「ニュース制作」における、データの保存場所、素材のつなぎ方の確認を見本DVDを見せて行う。</p> <p>○できあがった映像を見て、素材(写真・動画)の順番の入れ替えは行ってよいこととする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆自分たちの取り組みを学校内や地域に広めるために効果的な表現方法を考えている。</p> <p>追②【画用紙・ワークシート・発言】</p> </div> <p>○困っていること、編集に関することは全体で共有し、次回以降の編集作業につなげる。</p>

(4) 授業の考察

① デジタルカメラでの動画撮影及び編集のスキルについて

児童にとって動画の撮影及び編集は初めてのことで、スキルについて指導するために補助教材を活用した。

・DVD教材「映像制作 伝えるをつくる」の視聴

このDVD教材は、昨年度、市民・こども局が中心となって作成したものである。教師にビデオカメラやパソコン等に関する特別な知識がなくても指導ができ、児童がグループで無理なく学習できるよう、具体的な映像制作活動の進め方やアドバイスなどを収録し、企画、役割分担、撮影等について紹介している。映像の中で、児童への問いかけの場面などもあり、映像制作活動を通して、コミュニケーションの大切さを学ぶことや、映像を読み解く力などを身につけることをねらった内容となっている。



このDVD教材の視聴により、児童は伝えたいものを伝わりやすく撮影する方法がわかり、2回目以降の撮影に変化が見られた。

・「編集方法解説ビデオ（自作）」の視聴

動画編集は児童にも教師にも難しいというイメージがあり、今回の授業で使用する動画編集ソフトウェアである「キューブきっず4・『ニュース制作』」の使用手順について、短時間でわかりやすく指導する必要があると考えた。そこで、編集のための操作手順について解説するためのビデオを本研究会議で制作した。

この解説ビデオの視聴により、児童の編集活動がスムーズに進んだ。初めは「難しそう」と感じていた児童も、ビデオを視聴した後は「思ったより簡単そう」と感じ、「やってみよう」という意欲へつながっていった。

② タブレットPC（タッチパネル式）での操作について

タブレットPCの操作については、簡単な約束や操作方法を伝えるだけで、児童は抵抗感なく作業に取り組むことができた。今回は1グループ4～5名で1台のタブレットPCを使用した。どの方向からも画面にタッチすることで操作ができるため、これまでのノートPCを使用していた時のように、得意な児童がマウスを独占してしまうという状況は起こりにくい。



③ 動画編集ソフトウェア（「キューブきっず4・『ニュース制作』」）の操作について

今回児童が行った作業は以下の通り。



- ・動画や静止画を順番に並べる
- ・静止画の表示時間を決める
- ・動画の必要な部分を決める（いらぬ部分の削除）
- ・映像にあう言葉（テロップ）を入力する
- ・オープニングとエンディングを決める

操作中にソフトウェアの動作が止まることもあったが、直感的な操作で編集ができるため、児童は短時間で編集を進めることができた。

④ 伝える内容、順番を決めるための手立てについて

・「コンタクトシート」「伝えたいことカード」の活用

児童が持ち寄った素材を1つの映像にまとめる際、PCで編集する前に「コンタクトシート」を活用し並べ替えの操作を行った。コンタクトシートの横には、その写真や動画の説明をあらかじめ書いておくよう指示した。

同じテーマで集まったグループとはいえ、伝えたいことが違う一人一人の考えをうまく生かす発表とするのは難しいため、グループでストーリー性をもたせることで、受け手にわかりやすく伝えられるのではないかと考えた。そのために、写真や動画の順序を考える手立てとして「伝えたいことカード」を活用した。これは、一番伝えたいことをキーワードに

伝え方カード

6班・絶めつき組グループ

せつめつき組のめつきについて
知ってほしい。

コンタクトシート

せつめつき組のめつきを伝えたい。
(川原 珠)

本外は、ほくは谷公園にあるせつめつき組のめつきを知って大切にしてほしいです。
柳平直輝

し、グループ内でそれらを並べることで、コンタクトシートの順番が決まりやすくなるようにした。

⑤ 映像制作活動を取り入れたよさについて

児童の発表の様子やアンケート結果、つぶやき、参観者の感想から、映像で伝えることのよさについて次の通りまとめた。

- ・実際の音や様子、動きなどをそのまま伝えることができるのでわかりやすい。 (映像のよさ)
- ・絵や言葉では説明しにくいことを映像で簡単に説明できる。一目瞭然。 (映像のよさ)
- ・見せたい写真をいくつも使え、多くの情報を伝えることができる。 (映像のよさ・編集のよさ)
- ・見ている人が飽きない。低学年でも動画になると興味を持って聞いてくれる。 (映像のよさ)
- ・使いたいところだけ選んで伝えることができる。 (編集のよさ)
- ・映像だけでは伝えたい内容が伝えきれないときに、テロップを入れることができる。 (編集のよさ)
- ・インタビューで人が話したことを、話している様子(表情やしぐさ)や思いも含めそのまま伝えることができる。 (映像のよさ)

検証授業 2 中学校第2学年 総合的な学習の時間「東京の魅力を伝えよう」

(1) 映像制作に関して

本単元は、「東京校外学習」に向けて、あらかじめ調べた東京の魅力についての情報を整理し、実際に調査したことを発表することで、生徒の表現力を育成することを目標としている。この目標を達成するために、6人で構成された班ごとに「東京の魅力」をテーマにCM制作を行うこととした。映像で伝えることで、映像がより多くの情報や現場の様子を伝えることができることや、編集により情報を整理してまとめることを体験させたいとの思いから学習計画を立てた。

(2) 使用機器、ソフトウェアについて

校外学習当日の撮影機器は、生徒の私物(デジタルカメラ)を使用した。編集作業には、すでに使用したことがある生徒が多いことから、コンピュータ室の「Windowsムービーメーカー」を使用した。各班にSDカードを1枚手渡し、校外学習での写真や動画、学校での撮影した動画や編集のデータなどを保存させることとした。中学生ということもあり、機器やソフトウェアの使用について大きな抵抗感はなく、初めての生徒でも比較的簡単に作業を行うことができた。

(3) 本時の流れ

- ・本時の目標 「何を伝える」「どのように伝える」をもとに、班で話し合いながら、東京の魅力がより伝わりやすい流れを考え、ビデオ編集計画表(絵コンテ)を完成させる。
- ・展開

学習活動	・指導上の留意点 ★資料・教材
<p>○本時の活動について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた「何を伝える」と「どのように伝える」を確認する。 ・各自の意見をもとに、班でまとめていくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいや学習内容を伝える。 ★前時に使用したワークシート (東京の魅力を伝えるCMづくり①シート12)

<p>○「何を伝える」と「どのように伝える」から全体の流れを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何を伝える」「どのように伝える」をもとに、必要なシーンを付箋にかき出す。班で検討しながら、それらの順番を決める。 <p>○全体の流れから、各付箋（シーン）のビデオ編集計画表を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人1組になり、班で分担して付箋1枚ごとのビデオ編集計画表（絵コンテ）を作成する。 ・シーンのイメージを持ちながら、撮影場所、登場人物やその動きなども考える。 <p>○現時点でのビデオ編集計画表を並べ、全体のイメージを確認、訂正をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半で考えた流れをさらに具体的にイメージできるよう話し合う。 ・なかなかイメージがもてない場合は、班全体でサポートする。 <p>○ビデオ編集計画表から取材する場所・内容を確認し、役割を分担する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージがわくよう、見本を見せながら説明する。 ・ただ並べるのではなく、どの順番にするとわかりやすくなるかなども考えて決められるよう促す。 <p>★シーンをかく付箋と、並べるワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵などは見本を参考にし、大まかな流れがわかるようなもので構わない。 ・出演者やその動き、セリフなどもメモしておく。 <p>★ビデオ編集計画表（絵コンテ）を各班、複数枚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の流れを確認し、自分たちが伝えたいものが伝えられそうか考えるよう促す。 ・うまくまとめられない生徒を班員でサポートできるよう、班長を中心に声かけをする。
<p>○次時以降に向けての見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CMづくりに必要な小道具など、準備するものを考え、よりよいCMをつくるために必要なものを考える。 	<p>本時の評価</p> <p>「東京の魅力」を伝えるために、どのようにすればより伝わるか考え、それらを表現する方法を決める。</p> <p style="text-align: right;">（学び方やものの考え方）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからのCMづくり見通しをもち、当日に必要な取材を確認しておくよう促す。

（4）授業の考察

① ワークシートについて

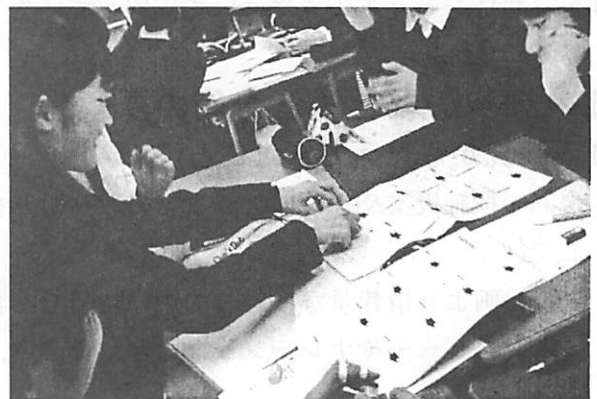
・ワークシートの見本

CMや絵コンテづくりのイメージをもっていない生徒が多いことを想定し、ワークシートの見本を作り配布した。見本を見ることで、書き方や全体のイメージをもって作業に取り組むことができた。

・ワークシート「CMの流れを考えよう」

時間の目安を記入する箇所があったため、生徒は時間を意識していた。付箋を貼り替えながら話し合いを進めている班もあった。

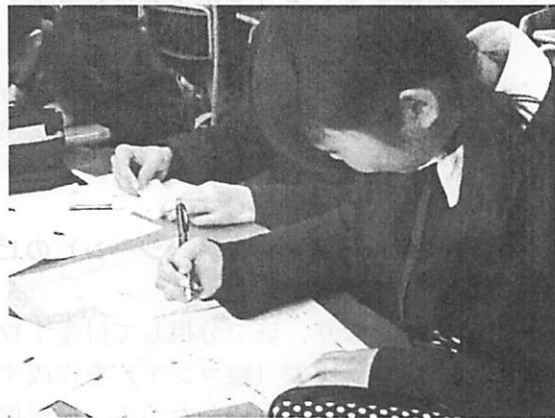
全体の流れを話し合う際には、貼り替えやすい付箋を活用したことは効果的であった。しかし、付箋を次のワークシートに移してしまうと、全体の流れが残らなくなってしまった。流れが決定し、次のワークシートに付箋を移す際に、マジックで書いてお



くなどをするべきであった。

・ビデオ編集計画表

イメージを書き表す時に、撮影時の立ち位置を考えるなどの工夫が見られた。校外学習当日にメモがとれるような欄を用意しておくことで、当日の取材でもさらに効果的に使えたのではないかと考える。また、ワークシートや見本のプリント等、机上に多くの資料が並んでいたため、やや混乱する場面も見られた。ワークシートを精選する必要性を感じた。



② 話し合い、全体の活動について

話し合いの時間を多くとったことから、お互いの考えやイメージを共有できたことで、後半の個別の作業の際に手助けし合うことができ、考えることが苦手な生徒も、2人組になってビデオ編集計画表づくりを進めることができた。



情報の整理や表現の工夫をねらい、CMの時間を3分と決め計画を立てさせたが、その時間を生徒に意識させることを徹底させられなかった。時間が短い場合は素材を選び直したり、長過ぎる場合は、よりわかりやすく伝えるために必要なものは何なのか考えたりするなど、情報活用能力の向上につなげていきたかった。

③ その後の活動への効果

全体の流れやビデオ編集計画表を班全体で細かいところまで事前に考えたため、校外学習当日に撮り忘れなどをする班が少なかった。見学場所ではビデオ編集計画表を見ながら、班員同士で「ここで、インタビューの動画をとるんだよ」と声をかけ合ったり、アングルを気にしながら撮影したりする場面が多く見られた。

CMのイメージをもたせるため、去年の生徒が制作したCMを見せたが、去年は編集作業を行っていないため、当日の取材で動画の撮影を行わなかった班も見られた。動画で伝えるよさを考えられるよう、事前の授業での声かけが必要であった。

校外学習後の活動として、校内での撮影では、事前の計画がしっかり立てられていたため、素早く台本を作り、撮影に移ることができた。最後に、発表会でお互いのCMを見合う中で、映像のよさや事前に構成を考えるよさについて実感している生徒もいた。

Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

1 研究から見てきたこと

今回の検証授業やその他これまでの取り組みを振り返り、表現・発信手段としての映像制作のよさとして、

- ・静止画より情報量が多いので短い時間で内容がよく伝わる。
- ・インタビューやナレーションなど、音、声、表情で伝わる効果大きい。

- ・現場の映像を見せることでイメージが伝わりやすく、児童生徒の言葉のみによる表現力の差を補うことができる。
- ・聞き手が興味をもってくれる。楽しく見てくれる。

等を挙げることができる。また、映像をそのまま使うのではなく編集を加えることで、伝わる情報が厳選されたり、さらに詳しくなったりするなどの効果も検証できた。

撮影機器やソフトウェアに関しては、身近なデジタルカメラで手軽に動画の撮影ができること、タブレットPCを使った直観的な操作で簡単に編集ができること等、映像制作を学習活動として取り入れる上で大きなメリットとなることが検証授業を通じてわかった。

しかし、単に機器やソフトウェア等の環境が改善され、児童生徒が簡単に機器を使えるようになることのみで情報活用能力が育成されるというわけではなく、自分たちの伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることを目的とし、そのためにどんな情報を収集すればよいのか、収集した情報をどのように整理・分析すればよいのか等、グループで知恵を出し合い思考を深めていく協同的な学習を取り入れていくことが重要であることを実感した。

総合的な学習の時間の「探求的な学習」に4つの過程（「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」）が挙げられている。今回の検証授業では、小・中学校共通して「整理・分析」、「まとめ・表現」の過程での学習活動に焦点を当て、協同的な学習の中で受け手にわかりやすく伝えるために、ワークシートや付箋、コンタクトシート等の思考ツールを活用し、動画や静止画の順序や構成を考える活動を充実させようと試みたが、そこで児童生徒がじっくりと思考し、根拠をもって判断したことで、達成感をもって表現し伝えたいことを発信することができたと考える。また、先ほど挙げたアナログな思考ツールを効果的に活用することで、タブレットPCやソフトウェアを使った活動にそれほど時間をかけずに映像制作ができるということも検証できた。

2 今後の課題

発表や説明の際に根拠を示すために映像を活用することは有効である。まず映像で伝えるよさを教師も児童生徒も認識することが大事であると感じた。映像で発表した方がよいという思いが高まってきた時に、そのスキルが身につけていないのでは表現力を高めていくことはできない。児童生徒の発達段階に応じて、表現ツールの一つとして映像を用いることをスキルとして身につけておく必要性を改めて感じた。関連して大きな課題としてあげられるのが、発達段階に応じてどこまでスキルを身につければよいのかという点である。今年度、本研究会議で総合的な学習の時間の授業をもとに検証を進める中で、小・中学校9年間の中で、どの教科等で、どの単元で、どんな学習活動で、どんなメディアを活用し、どんなスキルを身につければよいかという指標を、各学校でカリキュラムとして位置付けることが重要であると実感した。

さらに課題の一つとして、各教科等の授業で映像制作活動を積極的に取り入れようと試みた時に、機器やソフトウェア等の整備が十分ではないことが障害となっていることがあげられる。工夫を施すことで解決することもあるが、撮影のための機器や編集のためのPCの台数など、限られた時間に児童生徒が一斉に作業に取り組める環境は、市内小中学校で整っているとは言いがたい。本研究会議の検証結果が、今後の整備に向けた検討の際参考になればと研究員一同切に願うところである。

今回、小学校の授業で「DVD教材『映像制作 伝えるをつくる』」を活用し、児童のその後の活動の活性化が見られたが、この教材のように、児童生徒が「これなら自分も映像制作に取り組めそう」と思えるような具体的な技術面のサポートがあれば、学習活動としてより手軽に映像制作ができ、機

器の使いやすさに加えて教師の指導もしやすくなるを考える。さらに研修等指導面でのサポート体制の充実も今後の課題である。

最後に、研究を進めるに当たり、ご指導ご助言をいただいた先生方、また、研究員所属の校長先生をはじめ教職員の皆様に心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献／教材】

文部科学省「教育の情報化に関する手引」 2010年10月
「映像のまち・かわさき」推進フォーラム他「DVD教材『映像制作 伝えるをつくる』」2013年3月

【指導助言者】

目白大学社会学部教授（川崎市総合教育センター専門員） 原 克彦
川崎市総合教育センター カリキュラムセンター指導主事 中西 憲子

【協力】

スズキ教育ソフト